

新聞を活用した課題探究活動

兵庫県立西宮南高等学校 校長 浅場 正宏
教諭 森 裕貴

1 はじめに

昨年度に実践校に指定され、2年目を迎えた。今年度は昨年度の取り組みを継承しつつ、批判的思考力を養成するという新たな目標を定め、実践を深めていった。教科の授業で生徒の様子を観察すると、教科書の記述通りの解答や考察は行えるが、独自の考察をする様子は見られなかった。生徒の中には大学に進学を考えている者がいたので、進学後のレポート・論文作成の基礎となるように、プログラムに組み入れた。

また、今年度は兵庫県知事選挙と衆議院議員総選挙が実施され、新聞報道でも大きく取り上げられていた。政治的教養を育む教育と関連付けて実施した授業についても、報告したい。

2 実践の概要

(1) 各学年での取り組み

第1学年では、総合的な学習の時間のプログラムの一つであるディベート大会で用いる資料として新聞を活用した。

第2学年では、総合的な学習の時間の講座の中で、社会に関心を向けるきっかけとなる教材として活用した。

第3学年でも総合的な学習の時間の講座で、自分の考えを発信するための根拠資料として新聞を用いた。

(2) 新聞の設置場所と整理

前年同様、多くの生徒が通行するピロ

ティーに新聞ホルダーを設置した。毎週2人の生徒を新聞当番とし、事務室前に置かれた新聞を取り、ホルダーに付けさせた。外した新聞は、新聞社ごとのボックスへ保管し、毎週火曜日に2週間前の新聞を校務員室に運ぶこととした。

主として新聞を活用するのは第3学年であったが、他学年でも活用することから、各自が必要とする記事には付箋をつけさせた。毎週の授業で1週間分の新聞を教室に運び、付箋をつけた記事を切り取らせた。使い終わった新聞はボックスに保管し、誰でも使用できることとした。



新聞コーナー

(3) 1年間のプログラム

①新聞の構成

- ②社是学習
- ③コラム学習
- ④社説学習
- ⑤新聞記事輪読
- ⑥兵庫県知事選挙公約学習
- ⑦夏季課題報告
- ⑧衆議院議員総選挙公約学習
- ⑨小論文

3 実践内容

(1)新聞の構成

受講生徒にアンケートを取ったところ、新聞を毎日読む生徒が1人しかいなかったため、1面記事を題材に、「見出し」「リード文」等の役割を理解させた。また、新聞紙面の構成、コラムと社説の違いについての講義を行った。

(2)社是学習

批判的思考力の養成の基礎として実施した。月間購読の新聞2紙の同じ記事を題材とし、まずは生徒に内容を比較させ、内容に違いがあることに気づかせた。そこから、違いが起こる要因を考察させ、新聞社の考え方が違うことを発見させ、新聞社ごとの考え方をおさえておくことが新聞を読むうえで重要であることを理解させた。そして、各新聞社の社是を各自調べさせた。

(3)コラム・社説学習

昨年度に引き続き、コラム・社説学習を実施した。読解力の向上を狙いとし、段落整序と400字の要約を取り組んだ。生徒が記事の内容に興味を持つように、できる限り身近に感じることが出来るコラム・社説を用いた。

(4)新聞記事輪読

グループでコラム・社説・記事を選び、発表を行った。新聞記事を分析する基礎力の養成を狙いとし、新聞記事2紙の同じ内容の記事を比較させた。比較・考察を深めさせるために、記事は関連記事を含めて、内容・量・掲載紙面など多岐にわたって比較させた。生徒は意見が述べられるようになったが、根拠が示されないことが多かったため、根拠を示す指導を行ったところ、次第に根拠を示すことができるようになった。

(5)兵庫県知事選挙 公約学習

政治的教養を育む教育と関連させて実施した。生徒の情報整理力の向上を狙いとし、各候補者の公約をテーマ別に整理させた。普段の授業では扱っていなかった地方面を用いた。限られた時間内に情報を整理する力が弱いという課題が残った。

(6)夏季課題

情報を整理する力の養成を狙いに実施した。夏休みに興味を持った新聞記事8本を輪読の発表用紙の形式でまとめさせた。2学期にその内の1本を発表させたところ、情報をカテゴリーごとに分類していた生徒が多く見られた。また、考察も根拠が示されるようになってきており、表現力も向上していった。



夏季課題発表の様子

(7) 衆議院議員総選挙 公約学習

生徒の課題となっていた、情報を整理する力の養成を目的に実施した。6グループに分け、各グループを10代から60代までの各年代として設定し、生徒に職業、年収、家族構成などの条件を設定させた。そして、設定した年代を狙いとしている公約を新聞記事から探させ、分類させた。生徒は政治面や社会面等様々な記事を読み、公約を分類した。詳細な条件を生徒が設定したことにより、情報の取捨選択を素早くすることができていた。

また、初めは条件に当てはまらない年代の政策も手広く探し、検討するなど、探求活動の初期に必要な活動を生徒自ら行っており、生徒の成長を実感できた。

(8) 小論文

参考文献に新聞記事1本を入れるという条件で、1200字で小論文を作成した。テーマは、自分が集めていた新聞記事の中から設定させた。作成に当たっては、中間発表を行い、生徒間で相互評価を行い、探求活動を深めさせた。提出された小論文には、新聞記事を参

考に独創的なテーマを設定した生徒もあり、難しいことに挑戦したことが伝わってきた。しかし、自分の考えの根拠に新聞記事を効果的に使っていた生徒がいた一方で、単なる新聞記事のまとめに終わってしまった生徒もあり、小論文における新聞記事の活用の方法をどのようにして生徒に伝えるかということが課題として残った。

4 記者派遣事業

学校に近い新聞社の支局の方を講師として、新聞の構成、新聞記者の仕事、新聞ができるまでの流れ、新聞の読み方、文章の書き方について授業をしていただいた。生徒が特に興味を示したのは、記者の仕事と新聞製作の流れの部分であり、支局の記者の役割と紙面レイアウトの工夫について深く理解できていた。また、新聞の読み方については、「最低限、その日の新聞の見出しだけでもおさえる」ということを教わり、以後の授業で見出しだけで必要な記事か判断する姿が見られた。

生徒にとっては、新聞により親しみを持つことができた時間であり、新聞社の方の話聞く取り組みは今後も何らかの形で続けていきたいと考えている。

5 今年度の成果と来年度以降の課題

今年度は、批判的思考力の養成という目標を新たに掲げた。普段の授業で、教科書通りの答えしかしてこなかった生徒にとっては、難しく感じた場面が多くあったと思うが、前向きに取り組んでいた。その結果として、少しずつではあるが、

生徒が自分で考え、それを表現できるようになっていき、そこでまた新たな課題が出てくることもあったが、その課題にも前向きに取り組んでいた。この経験は、これから社会に出てからも様々な場面で生かしていくことができ、そのような取り組みを、新聞を活用して生徒に経験させることができたのは大きな成果だったと思われる。

また、授業後のアンケートでは、自分が興味を持った分野が広がったとの回答が多く見られた。高校生は、まだまだ社会に対する視野が狭い段階にある中で、少しではあるが視野を広げることができたことはよかったと思われる。来年度以降も、生徒の興味・関心を広げる取り組みを行っていききたい。

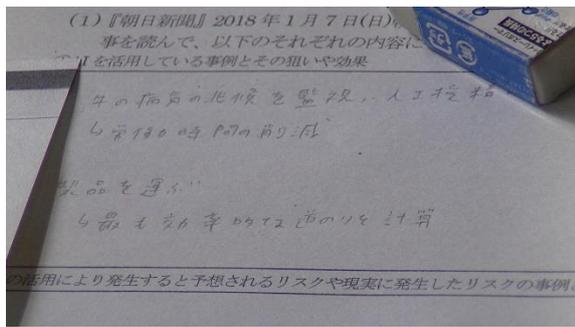
一方で、新聞を活用した課題探究活動を行っていく上では、新聞を探究活動の資料としてどのように位置づけるのか具体的にしておく必要があると感じた。提出された小論文を読んでも、設定したテーマに関する基礎知識を勉強するために新聞を活用していた生徒は多くいたが、自分の考えの根拠に新聞を活用できていた生徒は少なかった。新聞を根拠となる資料として生徒に活用させるためにも、探究活動のやり方と新聞の資料としての性質について学習する機会を設ける必要があると思われる。

また、教員側からは、生徒の思考力・判断力・表現力が伸びたと評価しているが、生徒アンケートの結果を見ると、これらの力が伸びたと実感している生徒は少なかった。その要因としては、同じような展開の取り組みが多くなってしまい、

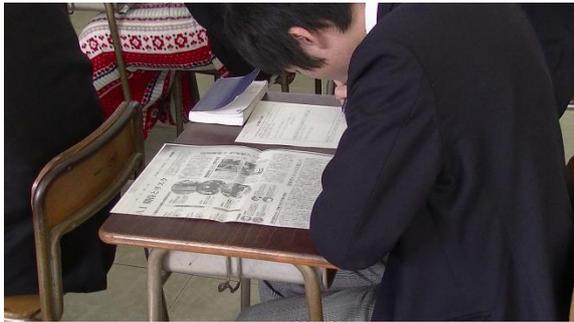
取り組む中で自身の変化に気づけなかったことが挙げられる。来年度も似たような展開の授業が続くことがあると思われるので、評価方法を工夫して、生徒の実感へとつなげていきたい。具体的には、生徒間の相互評価の回数を多くすること、自己評価をする機会を設けることなど工夫をしていきたい。

加えて、西宮南高校の NIE 事業を継続していく仕組みを作っていくことも今後の課題である。3 年生を中心に授業担当者ごとに事業を推進しているため、年度ごとに狙いや内容が変わってしまっている。今後、全教員の共通理解や 3 年間を通したカリキュラムを構築していく必要があると考えている。その第一歩として、今年度取り組んだ 3 年生の総合的な学習の時間の講座のカリキュラムの作成から取り組んでいきたい。

今年度最後の授業では、3 年生が成長した姿を見せてくれた。授業始まったころは 1 行で要約を終えてしまっていた生徒が、最終授業ではポイントをおさえて記事の内容を把握し、自分の考えを表現できるようになるまでになっていた。この姿に 1 年間の授業の成果を垣間見ることができた。新聞を活用した授業を行うことで、生徒に新たな視点を与え、社会への興味・関心を持たせることができると改めて実感した。今後も試行錯誤しながら新聞の活用を深めていきたい。



最終授業の生徒のワークシート



最終授業の生徒の様子